

SPODフォーラム2023 愛媛大学

2023年8月25日（金）10:00～12:00

愛媛大学城北キャンパス 2501B



大学のライティング教育から考える職能開発

香川大学 大学教育基盤センター
蝶 慎一

Mail: cho.shinichi@kagawa-u.ac.jp
<https://researchmap.jp/CHO2016/>
<https://orcid.org/0000-0001-5297-4075>

1. はじめに

- 1.1. 本プログラムの概要
- 1.2. 本プログラムの到達目標
- 1.3. 講師の自己紹介
- 1.4. 本プログラムのアウトライン



1.1 本プログラムの概要①

◆概要

大学におけるライティング教育（特に、アカデミック・ライティング）はきわめて重要になっています。これまでも授業で課されるレポート、ゼミや研究室での卒業論文の執筆に代表される「書く力」の育成が問われてきました。一方で、こうしたアカデミック・ライティングにおいて、学生たちはどのような問題や困難、課題を抱えているのでしょうか。大学のライティング教育をめぐって、どのような職能開発の新たな可能性が考えられるのでしょうか。

このプログラムでは、日本の大学におけるライティング教育の現状と特徴について、先駆的な取組事例を紹介することで参加者の皆様の大学等におけるライティング教育をめぐる職能開発の新たな可能性を試行的に考えるきっかけとしたいと考えております。

1.1 本プログラムの概要②

◆キーワード

ライティング教育

文章作成能力

書く力

アカデミック・ライティング

職能開発
(専門性開発)

ライティング・センター

FD

生成AI

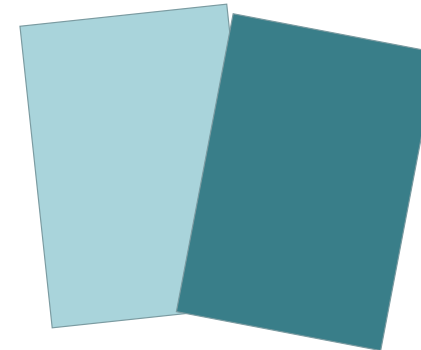
1.1 本プログラムの概要③



5

1.1 本プログラムの概要④

※本プログラム内容の一部詳細は、以下を参照されたい。



【参考文献】
Machi Sato, & Shinichi Cho. (2021).
**Potential roles of writing
centers for writing related
Faculty Development.** In N.
Miyokawa (Ed.), *Opportunities and
Challenges of English Academic
Writing Education in Japanese
Universities*: 157: Review in Higher
Education (pp.31-44).
<https://doi.org/10.15027/50757>

6

1.2 本プログラムの到達目標

◆到達目標

1. 日本の大学におけるライティング教育（アカデミック・ライティング）の現状と特徴を理解することができる。（2.）
2. 他大学のライティング教育（アカデミック・ライティング）の取組事例を把握し、その特徴と可能性を抽出することができる。（3.）
3. 自大学のライティング教育（アカデミック・ライティング）をめぐる職能開発の可能性を試行的に考えることができる。（2. 及び 4.）

7

1.3 講師の自己紹介（簡単に）

東京大学 大学院教育学研究科 総合教育科学専攻 博士課程修了 博士（教育学）

国立大学協会 特別研究員（非常勤）

大学評価・学位授与機構 研究開発部 特任研究員（〃）

大学改革支援・学位授与機構 研究開発部 助教（専任）

広島大学 高等教育研究開発センター（RIHE）助教（専任）

〃 教育学習支援センター 兼任教員（〃）

香川大学 大学教育基盤センター 准教授（～現在に至る）

・日本学生支援機構（JASSO）学生支援取組状況に関する調査委員、国立大学協会客員研究員 など

【専門分野】 高等教育（学生支援、教養教育、大学史）／歴史研究・比較研究（日・米・カナダ、沖縄）

8

1.4 本プログラムのアウトライン

1. はじめに

- 1.1 本プログラムの概要
- 1.2 本プログラムの到達目標
- 1.3 講師の自己紹介
- 1.4 本プログラムのアウトライン

2. ライティング教育：理念と内容は？

- 2.1 繰り返される「アカデミック・ライティング」ブーム？
- 2.2 初年次教育における拡大と重視
- 2.3 「標準的」な文章作成能力とは？
- 2.4 個々の分野特性と学際融合にどう向き合う？

3. 訪問事例・文献調査から

- 3.1 初年次ゼミ、学部教員
- 3.2 広島大学（2021年3月）
ライティングセンター
- 3.3 東京大学（2023年6月）
駒場アカデミック・ライティング・センター

4. まとめ：新たな職能開発の可能性・必要性を考える

- 4.1 組織的な体制構築の必要性
- 4.2 ライティングを教える教員を育成するFD
- 4.3 ライティング教育を支える学生スタッフ（TA）
の育成・活躍（活用）

2. ライティング教育： 理念と内容とは？

- 2.1. 繰り返される「アカデミック・ライティング」ブーム？
- 2.2. 初年次教育における拡大と重視
- 2.3. 「標準的」な文章作成能力とは？
- 2.4. 個々の分野特性と学際融合にどう向き合う？



2.1. 繰り返される 「アカデミック・ライティング」ブーム？①

■ グランドデザイン答申（2018）「学修者本位の教育の実現」

⇒『令和4年度 文部科学白書』における記述。

「専攻分野の専門性を有するだけでなく、**思考力、判断力、俯瞰力、表現力**の基盤の上に幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ**自主的・自律的に考え**、多様な他者と協働しながら、新たなモノやサービスを生み出し、社会に新たな価値を創造し、より豊かな社会を形成することのできる人を育てていかなければなりません。」（152頁）

注）太字強調は、講師による。

（出所）文部科学省公式ウェブサイト、「第5章 高等教育の充実」『文部科学白書2022』
(https://www.mext.go.jp/content/20230713-mxt_boseisk02-000030936_11.pdf) 2023年8月1日最終確認。

2.1. 繰り返される 「アカデミック・ライティング」ブーム？②

■ わが国の大学におけるライティング教育の流れ（大まかに）

⇒大学（教育）で、分野を問わず身に付ける能力：
一般に、「**文章作成能力**」と言われてきた。

- ・1980年代頃～ **読み書き教育**に対する問題意識の高まり、芽生え（初中等教育も）
- ・1990年代頃～ **日本語表現科目**が創設され始める
- ・2000年代以降 **初年次教育（補習教育）**としてのライティング科目設置
ライティング・センターや**大学図書館**などでの**正課外の指導**の散見

（出所）Sato & Cho (2021, 31頁)、井下（2008）『大学における書く力考える力ー認知心理学の知見をもとにー』東信堂、を参照。

2.1. 繰り返される「アカデミック・ライティング」ブーム？③

■「ライティング・センター」とは？

⇒文部科学省によれば、「日本語表現力を高めるためのセンター」

(例) 早稲田大学のライティング・センターによる紹介を引用すれば、

・「文章のどこが問題なのか、どうしたらもっとよくなるかを書き手自身が気づき、

分かるようにチューターが働きかけます。対話をしたり作業をしたりしながら、書き手とチューターと一緒に考えます。こうすることによって、書き手は独りになった時にも文章の問題点や修正方法に気づけるようになっていきます。」

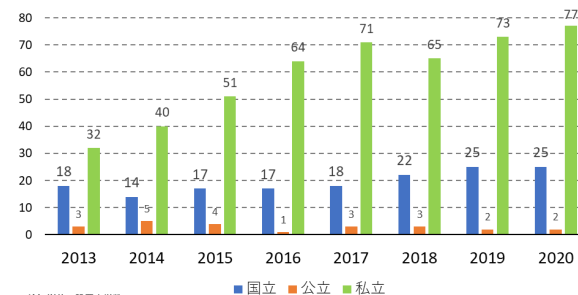
・「(講師注：早稲田大学の)ライティング・センターでは、『ペーパーをよくする』のではなく、『書き手が成長する』ことを目指した支援をします。」

(出所) 文部科学省ウェブサイト、「令和2年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20230117-mxt_daigaku01-000025974_1r.pdf) 2023年8月1日最終確認。早稲田大学ライティングセンターウェブサイト、「About the Writing Center」(https://www.waseda.jp/inst/aw/about/what) 2023年8月1日最終確認。

13

2.1. 繰り返される「アカデミック・ライティング」ブーム？④

■「ライティング・センター」の設置動向は？



・国立大学では、2013年と比較し2020年は、**約1.4倍増加**。

・私立大学では、同様に、**約2.4倍増加**。

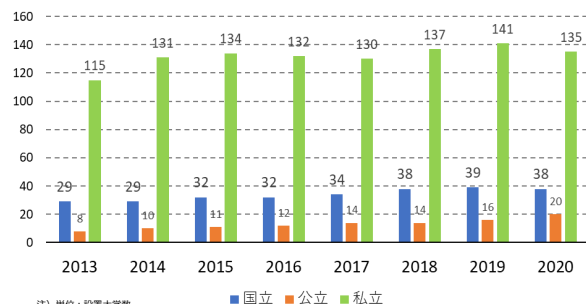
注) 単位: 設置大学数

(出所) 文部科学省ウェブサイト、「令和2年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20230117-mxt_daigaku01-000025974_1r.pdf)、同ウェブサイト「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20211104-mxt_daigaku03-000018152_1.pdf)、同ウェブサイト「平成30年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20201005-mxt_daigaku03-000010276_1.pdf)、同ウェブサイト「平成29年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20200428-mxt_daigaku03-000006853_1.pdf)、いずれも2023年8月1日最終確認。

14

2.2. 初年次教育における拡大と重視①

■「初年次教育を実施するためのセンター等」の設置動向



・国立大学では、2013年と比較し2020年は、**約1.3倍増加**。

・私立大学では、同様に、**約1.2倍増加**。

注) 単位: 設置大学数

(出所) 文部科学省ウェブサイト、「令和2年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20230117-mxt_daigaku01-000025974_1r.pdf)、同ウェブサイト「令和元年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20211104-mxt_daigaku03-000018152_1.pdf)、同ウェブサイト「平成30年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20201005-mxt_daigaku03-000010276_1.pdf)、同ウェブサイト「平成29年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20200428-mxt_daigaku03-000006853_1.pdf)、いずれも2023年8月1日最終確認。

15

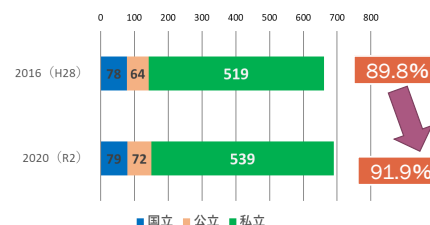
2.2. 初年次教育における拡大と重視②

■初年次教育における関連プログラム

※「令和2年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」より

プログラムレベルで見ると…

⇒「レポート・論文の書き方などの文章作法を身に付けるための**プログラム**」



設置者を問わず、実施大学が**増加傾向**にある。

注) 単位: 大学数

(出所) 文部科学省ウェブサイト、「令和2年度の大学における教育内容等の改革状況について(概要)」(https://www.mext.go.jp/content/20230117-mxt_daigaku01-000025974_1r.pdf) 2023年8月1日最終確認。

16

2.3. 「標準的」な文章作成能力とは？①

■「学術的文章の作成」の授業内容（下表参照）

（早稲田大学 学部横断型基盤教育科目）

⇒「**さまざまな専攻の学生が共通に履修する**という条件を考えると（中略）必然的に、**汎用性の高い文章作成能力**を身につけることが**学修の目標**となってくる。」（Sato & Cho 2021, pp.33-34）

回	タイトル	内容
第1回	学術的な文章とは	ことばと思考の関係、学術的な文章の特質。
第2回	文を整える	文を思考の単位とし積み上げて書く、文と文の関係を自覚する。
第3回	語句を明確に使う	語句の意味範囲を自覚して使う。
第4回	全体を構成する	文章を＜序論・本論・結論＞で構成する。
第5回	論点を整理する	内容を均質に分け、抽象度を意識して、論点を整理する。
第6回	参考文献を記す	参考文献を引用する意義、参考文献表の作り方。
第7回	引用をする1	本文での引用の仕方、特に＜ブロック引用＞の仕方。
第8回	引用をする2	文献からの＜キーワード引用＞、「読者への案内」。

（初年次）学生の多い悩みとは？

・書式、表現、図やデータの示し方、方法論、問い・仮説の立て方、など・・・

（出所）東京大学駒場アカデミック・ライティング・センターのプロモーション動画
（https://www.youtube.com/watch?v=2-LZduwR1U8&t=219s）より一部引用・参照。

注）本学強調は、講師による。（出所）牧原良治編「学術論文・修士論文・博士論文・学位論文（2015）」『初年次アカデミック・ライティング授業の効能－早稲田大学商学部における調査－』『日本大学教育学会誌』第37巻第2号、156頁より引用。

17

2.3. 「標準的」な文章作成能力とは？②

■変わらぬ「専門基礎として作文教育」の重視

※**館野佐保（2019）「学術的文章作成の基礎 論文執筆の支援とライティングセンター」『化学と生物』Vol.57 No.5、304-310頁。**

・「『作文トレーニング』は研究活動の一部として、**研究室内でほとんど教員が担っている。**」（館野2019、308頁）

・「**専門分野や研究室によってノートの取り方や原稿での引用文献の示し方、ゼミでのフォーマットなどは違っている。**所属先で教員や先輩から一つひとつ指導を受ける論文の書き方などのこと」（同上）

※**井上麻未・糟谷知香江（2023）「看護学部における文章創作の試行授業」『聖路加国際大学紀要』Vol.9、99-103頁。**

・**研究室やゼミではなく、看護学部の授業における「自分史」の創作。授業での試行的取組の好例。**

注）太字強調は、講師による。

18

2.4. 個々の分野特性と学際融合にどう向き合う？①

■分野ごとの特徴を踏まえること、教員としての「執筆指導」経験

※**淡野将太（2022）「心理学の学術誌論文の執筆指導」『琉球大学教育学部紀要』第101集、1-4頁。**

⇒2019年、学生が卒業論文を仕上げた。2020年春、学生と共著で紀要論文を執筆。2020年夏、教職大学院に進学した学生が「卒業論文を学術誌に投稿したいと申し出た」（淡野2022、2頁）

そして、この学生が**研究者志望ではなかった**（同上）

⇒「（講師注：大学教員として）単著での学術誌論文の執筆経験はあるが、**執筆指導は経験がなかった**」（同上、4頁）

「卒業研究を指導していた時は学術誌への投稿は考えていなかったの、最初からその気ならもっと色色なことができただろう。」（同上）

注）太字強調は、講師による。

19

2.4. 個々の分野特性と学際融合にどう向き合う？②

■（ご参考）心理学の分野のレポート、論文の書き方をつめる書籍のごく一部。

※松井豊（2010）『改訂新版 **心理学論文の書き方** 卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社。

※都筑学（2006）『**心理学論文の書き方**—おいしい論文のレシピ—』有斐閣アルマ。

※坂本真士・大平秀樹編（2013）『**心理学論文道場**—基礎から始める英語論文執筆—』世界思想社。

※板口典弘・山本健太郎（2017）『**心理学レポート・論文の書き方** 演習課題から卒論まで』講談社。

※南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（2001）『**心理学研究法入門** 調査・実験から実践まで』東京大学出版会。

注）太字強調は、講師による。（ほか多数）

20

3. 訪問事例・文献調査から

- 3.1. 初年次ゼミ、学部教員
- 3.2. 広島大学（2021年3月）
ライティング・センター
- 3.3. 東京大学（2023年6月）
駒場アカデミック・ライティング・センター

21



3.1. 初年次の授業、ゼミ、学部教育（一部）

■ 初年次の授業、ゼミでのライティング教育の動き

・**香川大学**では、教員向け『大学入門ゼミハンドブック』（大学教育基盤センター）を毎年度更新し、発行。各授業担当教員の意向を反映させることに留意。

⇒「授業モデル」として、各教員向けに、「情報整理の方法」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」を紙冊子、電子媒体で提示、提供。

・**大阪大学**では、『**阪大生のためのアカデミック・ライティング入門**』を作成（堀・坂尻 2015、30頁）。また、**大分大学**の教養科目「分大キャンパスライフ入門」での新聞記事作成。（牧野ほか2014）

・**広島大学**では、1年次向け「大学教育入門」の授業で、アカデミック・ライティングを扱う。

（出所）広島大学シラバス「大学教育入門[1教]」（https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/2023_AA_10000104.html）、2023年8月1日最終確認

■ 学部教育でのライティング教育の動き

例えば・・・**館野**（2019）、**井上・糟谷**（2023）ほか、多数の実践事例。

22

3.2. 広島大学ライティングセンター①

■ ミッション

「学部生から大学院生・教員まで、段階に応じたアカデミックライティングスキルの向上を支援することにより、本学の教育・研究の総合的な機能強化を実現する。」

■ 理念（一部）

「ライティングセンターの文章検討は、チューターとの1対1の対話によって進められ、よりわかりやすい文章とするための解決策を協働的に探っていきます。指導ではなく対話というやり方により、文章を書いた書き手自身の気づきを促すことで、書き手の学術的文章作成力を育みます。」

主な活動、取組 中央図書館内に設置

- **大学院生のチューター15名**による「ライティング相談」
- 所属教員による関連授業の提供。英語論文作成相談。
- セミナー・ワークショップ。

「2021年2月にはライティングセンターが実施するチュータートレーニングプログラムがThe College Reading & Learning Association (CRLA) における International Tutor Training Program Certification (ITTPC)（国際チューター育成プログラム認定）の審査に合格し、ライティングセンターは国際標準のチュータートレーニングプログラム（レベル1）の実施機関として認定されました。トレーニングプログラムの要件を満たしたチューターには認定証を授与しています。」

注）太字強調は講師による。（出所）広島大学ライティングセンターウェブサイト（<https://www.hiroshima-u.ac.jp/wrc/>）、2023年8月2日最終確認

注）太字強調は講師による。（出所）広島大学ライティングセンターウェブサイト「ライティングチューター」（<https://www.hiroshima-u.ac.jp/wrc/staff/tutors/>）、2023年8月2日最終確認

23

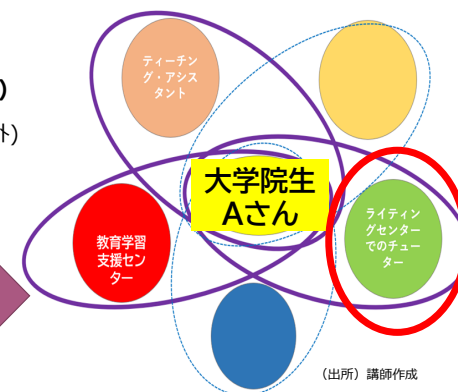
3.2. 広島大学ライティングセンター②

◆ 大学院生 Aさん

広島大学のなかで活躍・・・

- ▶ 正課の授業の**TA**（ティーチング・アシスタント）
- ▶ 教育学習支援センターの**学生スタッフ**（正課外）
- ▶ **ライティングセンター**の**チューター**

実に多様な役割を担う



（出所）講師作成

24

3.3. 東京大学駒場アカデミック・ライティング・センター①

■ 目標

＊「教養学部前期課程を中心とした関連授業と連動し、早期から論文執筆の技術や能力を涵養する。」

＊「深く豊かな批判的思考力と国際感覚を備えた議論の構築と発信ができる能力を養う。」

＊「対話的サポートを通して、読み手を意識し自己を客観視する批判的態度を備えた自立した書き手を育て、将来の学術的アウトプットの質的向上を目指す。」

■ 歴史

2008年4月 駒場ライターズスタジオ (KWS) 設立

2022年4月 駒場アカデミック・ライティング・センター (CAWK) 設立 (KWS統合)

2022年6月 駒場アカデミック・ライティング・センター (CAWK) 日本語部門 開設

2023年5月 駒場アカデミック・ライティング・センター (CAWK) 初修外国語上級部門、
初年次ゼミ部門、大学院 (文系) 部門 開設

(出所) 東京大学駒場アカデミック・ライティング・センターウェブサイト概要 (https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/cawk/about.html) 、2023年8月2日最終確認より、適宜、一部引用。

25

4. まとめ：新たな機能開発の可能性・必要性を考える

- 4.1. 組織的な体制構築の必要性
- 4.2. ライティングを教える教員を育成するFD
- 4.3. ライティング教育を支える学生スタッフ (TA) の育成・活用

27



3.3. 東京大学駒場アカデミック・ライティング・センター②

主な経緯、活動、取組

- 「2022年4月に東京大学総合文化研究科附属の機関として設置」。
- 「英語のALESS/ALESA/FLOW授業支援」。「教養学部英語コースPEAK (Programs in English at Komaba) および短期留学生向けの日本語授業支援を行う日本語部門がもう一つの柱」。
- 「2023年度から初年次ゼミナール部門と初修外国語上級部門、大学院 (文系) 部門」が置かれた

(出所) 東京大学駒場アカデミック・ライティング・センターウェブサイト概要 (https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/cawk/about.html) 、2023年8月2日最終確認より、適宜、一部引用。

- ◆ 駒場アカデミック・ライティング・センター教員の強力な関与。
- ◆ センターに所属するTF、TAの活躍。
- ◆ 上記のALESS/ALESAにも関わるが、いわゆる文系・理系による違いとその対応の困難さ。
- ◆ 学内のみであるが、豊富なライティング教育や学修に役立つ資料・パンフレット類。

26

4.1. 組織的な体制構築の必要性

- 大学教育におけるライティング教育、指導の重要性は、言うまでもない。
- 誰が、どこで、どのように実施するのか、という基本的な課題がある。
- すべての大学で「ライティング・センター」がある、置け、置いているわけではない (2.1.前掲) 。

28

4.2. ライティングを教える教員を育成するFD

- ライティング教育、指導は必要である今日、それを教える（その機能開発、専門性開発をする）教員（担当者）を育成する必要がある（Sato & Cho 2021）。

⇒これまで見過ごされてきた問題と考えている

- 具体的には、ライティング教育に資するFDの企画、実施、その普及、波及を見据えた取組を行う（Sato & Cho 2021）。

⇒多くの大学で、今春から今夏にかけて生成AIと教育に係るFDが行われてきた。

29

【ご参考まで】 大学のライティング教育をめぐる機能開発 主な関連文献（1）教員の関わり、学生の実態①

伊藤奈賀子（2010）「学士課程における日本語リテラシー教育の開発」名古屋大学博士論文（未刊行）	時任隼平・三井規裕・福山佑樹・西口啓太（2022）「初年次生のアカデミックライティングに関する実態調査」『関西学院大学高等教育研究』第12号、pp.31-45
橋本京子（2004）「卒業論文作成時におけるポジティブ幻想の現れ方と精神的健康との関係について」『京都大学大学院教育学研究科紀要』50、pp.265-276	西口啓太（2018）「アメリカ合衆国の大学における初年次ライティングの教育実践に関する一考察 モントクレア州立大学の事例に着目して」『教育実践学研究』第20巻第1号、pp.9-21
橋本京子（2011）「大学生の卒業論文作成時の自己認知、および卒業論文作成状況に対する認知に関する実証的検討：卒業論文作成によって生じるストレスの側面から」『京都大学大学院教育学研究科紀要』57、pp.489-502	保泉空・服部祥英・佐藤智子（2023）「ライティング支援における効果的な対話方法―課題の指示に応えるレポート作成支援の事例に注目して―」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第9号、pp.85-97
三井規裕・時任隼平・福山佑樹・西口啓太（2020）「大学初年次生がアカデミック・ライティングのどの技術を苦手と感じるかの検討」『日本教育工学会研究報告集』20(4)、pp.91-96	菅谷奈津恵（2018）「全学教育におけるライティング課題の実施状況―東北大学教員への面接調査から―」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第4号、pp.463-473
串本剛・吉植庄栄・中川学・菅谷奈津恵（2016）「東北大学の全学教育におけるレポート作成指導講義担当教員を対象とした面接調査の知見」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第2号、pp.233-241	児玉恵美（2013）「卒業論文作成における教育的意義―学生の自尊感情と教員による期待―」『応用障害心理学研究』第12号、pp.13-26

31

4.3. ライティング教育を支える学生スタッフ（TA）の育成・活用

- 教員だけで、すべてを抱え込む必要はないかもしれない。
- 学生がライティング教育を支援する指導補助者として関わってもらう、関われる仕組みづくりの検討が必要かもしれない。
- その際に留意すべきは、こうした学生をどのように育成するのか、活躍（活用）してもらうのか、という課題。

30

【ご参考まで】 大学のライティング教育をめぐる機能開発 主な関連文献（1）教員の関わり、学生の実態②

永澤桂（2013）「美術大学におけるライティング支援 その理念と実践をめぐって」『女子美術大学研究紀要』第43号、pp.39-47	館野泰一（2014）「アカデミック・ライティングにおける協同推敲支援システムの開発と実践に関する研究」東京大学博士論文（未刊行）
牧野治敏・末本哲雄・山下茂（2014）「教養科目『分大キャンパスライフ入門』の実践」『分大大学高等教育開発センター紀要』第6号、pp.101-110	荻原桂子（2021）「岡山理科大学初年次教育におけるアカデミック・ライティングの教育改革―読解力・思考力・表現力を育てる実践研究―」『岡山理科大学教育実践研究』第5号、pp.195-198
堀一成・坂尻彰宏（2014）「大阪大学におけるアカデミック・ライティング教育の実践と教材作成」『大阪大学高等教育研究』3、pp.27-32	後藤靖宏・黒澤勝士（2005）「学習者の認知的負荷の低減を考慮した論文執筆指導マニュアルの作成―心理学論文執筆の指導実践からの報告―」『北星論集（文）』第42巻第2号（通巻第43号）、pp.89-101
藤田里美（2022）「ライティングセンターの効果的な活用方法を探る―効果的活用が見られなかった事例の研究から―」『関西大学高等教育研究』第13号、pp.59-64	根岸千悠・坂尻彰宏・堀一成・山口和也（2016）「初年次教育科目としての理系学生対象アカデミック・ライティングの授業デザイン」『大阪大学高等教育研究』5、pp.63-69

32

【ご参考まで】 大学のライティング教育をめぐる職能開発 主な関連文献（2）：書籍

戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版	塚本真也（2007）『知的な科学・技術文章の徹底演習』コロナ社
吉田健正（2004）『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 [第2版]』ナカニシヤ出版	渡辺哲司・島田康行（2017）『ライティングの高大接続 高校・大学で「書くこと」を教える人たちに』ひつじ書房
小野田博一（1997）『論理的に書く方法』日本実業出版社	西川真理子・橋本信子・山下香・石黒太・藤田里美（2017）『アカデミック・ライティングの基礎—資料を活用して論理的な文章を書く—』晃洋書房
小笠原喜康（2009）『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書2021）講談社	桜井邦明（2007）『アカデミック・ライティング—日本文・英文による論文をいかに書くか—』朝倉書店
井下千以子（2017）『思考を鍛える大学の学び入門—論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで—』慶応義塾大学出版会	近江幸治（2011）『学術論文の作法—[付] 小論文・答案の書き方—』成文堂
澤田昭夫（1977）『論文の書き方』（講談社学術文庫153）講談社	田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩（2019）『リーガル・リサーチ&レポート第2版』有斐閣
石井一成（2011）『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社	上野千鶴子（2018）『V アウトプットする』『情報生産者になる』筑摩書房、pp.235-324
谷美奈（2021）『「書く」ことによる学生の自己形成』東信堂	慶應義塾大学日吉キャンパス学習相談員（2014）『アカデミック・スキルズ 学生による学生のためのダメレポート脱出法』慶應義塾大学出版会
石黒圭（2019）『論文を書くとはどういうことか』東谷護編『表現と教養』ナカニシヤ出版、pp.3-34	石黒圭・飯間浩明・安部達雄（2019）『初年次教育における論文の書き方指導を考える』東谷護編『表現と教養』ナカニシヤ出版、pp.67-129

33

【ご参考まで】 大学のライティング教育をめぐる職能開発 主な関連文献（3）：ライティングセンター①

多田泰紘・岩崎千晶・中澤務（2019）「ライティングセンターと教員の連携がプロセスに沿った継続的なライティング学習に与える効果」『大学教育学会誌』第40巻第2号、pp.46-53	岩崎千晶（2021）「初年次生のレポートに表出した課題分析とライティングセンターの寄与」『関西大学高等教育研究』第12号、pp.25-35
上田大輔・尾崎文代・高橋努（2017）「大学図書館の機能を拡張し発展させる広島大学ライティングセンターの取り組み」『大学図書館研究』105巻、pp.75-84	保田幸子・張梓楨（2021）「ライティングセンターにおける文章執筆支援—チューターと書き手の双方の視点から—」『日本語教育』第180号、pp.17-32
西口啓太（2021）「米国大学ライティングセンターにおける学習支援人材の専門性開発の動向—ライティングセンターの機能拡大に伴うスタッフの担う役割の変容—」『神戸大学「研究論叢」』第27号、pp.13-26	藤枝美穂（2019）「アカデミック・ライティングを支援するライティングセンターの動向」『大阪医科大学紀要人文研究』50、pp.26-39
中竹真依子（2021）「英語ライティング指導における対話の役割の検討：ライティングセンター研究の知見から」『言語・文化・社会』第19号、pp.69-82	吉村富美子（2020）「オハイオ大学におけるアカデミックライティング指導—授業とライティングセンターによる支援」『東北学院大学論集—英語英文学—』第104号、pp.51-82
多田泰紘・岩崎千晶・中澤務（2018）「ライティングセンターに寄せられた個別学習相談の分析—学生のニーズと課題の可視化」『関西大学高等教育研究』第9号、pp.37-42	飯野朋美・稲葉利江子・大原悦子（2015）「個別相談とライティング支援の可能性—津田塾大学ライティングセンターの活動分析から—」『津田塾大学紀要』No.47、pp.133-148

34

【ご参考まで】 大学のライティング教育をめぐる職能開発 主な関連文献（3）：ライティングセンター②

吉田弘子（2010）「大学ライティングセンターに関する考察—その役割と目的—」『大阪経大論集』第61巻第3号、pp.99-109	井下千以子・佐藤広子・小林至道・岩崎千晶・佐渡島紗織・柴原宜幸・大島弥生・成瀬尚志・関田一彦（2020）「ライティング・センターの機能と展望—正課と正課外をつなぐライティング教育を目指して—」『大学教育学会誌』第41巻第2号、pp.90-94
武井昭也・伊藤寛・J. David Hyre（2002）「アメリカの大学におけるライティングセンターの役割と機能—学習者の表現能力育成における学習支援を視野に—」『札幌国際大学紀要』33、pp.107-115	坂本麻裕子・中島宏治（2022）「ライティング・センターにおけるオンライン支援の分析—対面支援の発話量および発話内容との比較—」『リメディアル教育研究』第16巻、pp.27-41
Mayumi Fujioka. (2011). U.S. Writing Center Theory and Practice: Implications for Writing Center in Japanese Universities. 近畿大学教養・外国語センター紀要（外国語編）第2巻第1号、pp.205-224	Megan Swihart Jewell & Joseph Cheattle (eds.). (2021). <i>Redefining Roles: The Professional, Faculty, and Graduate Consultant's Guide to Writing Centers</i> . Utah State University Press
岩崎千晶・稲葉利江子・小林至道・本村康哲（2013）「ライティングセンターにおける相談記録の分析：学生からの相談事項に着目して」『大学ICT推進協議会年次大会論文集』	岩崎千晶（2022）「第4章 学習・授業を支えるFD・学習支援環境を考える」同編『大学生の学びを育むオンライン授業のデザイン—リスク社会に挑戦する大学教育の実践—』関西大学出版部、pp.57-69
大原悦子（2019）「第3章 津田塾大学ライティングセンター」関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編『大学におけるライティング支援—どのように「書く力」を伸ばすか—』東信堂、pp.63-89	多田泰紘・岩崎千晶・中澤務（2019）「第2章 関西大学ライティングラボ」関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編『大学におけるライティング支援—どのように「書く力」を伸ばすか—』東信堂、pp.27-59

35

〔謝辞〕

本プログラムの作成にあたっては、科研費19H01688、同21H00877、大学行政管理学会若手奨励（第48号）研究代表者「学修者本位の大学教育におけるTAの資質・能力とその専門性に関する探索的研究」による研究成果の一部を参考にし、作成している。

お忙しいところ、
本プログラムにご参加いただき
誠にありがとうございました。

